

受付番号

## 留学・研究計画書

氏名 金子 祐樹	留学機関名 高麗大学校民族文化研究院
留学先国名 大韓民国	留学期間 西暦 2009年4月～2011年3月
研究テーマ 17世紀初頭の朝鮮における道德觀念の諸相—官撰教化書と「伝」資料を中心に—	
研究テーマの説明 (テーマの学術的・社会的意義についても記載してください)	
<p>本研究は、17世紀初頭の朝鮮で刊行された官撰教化書『東国新統三綱行実図』（以下、『東国』と略称）や私撰の「伝」資料、更に『朝鮮王朝実録』などに記載された徳行・背徳行為、およびその行為者という具体例に着目し、文献資料の精読を通じ、儒教的道德倫理觀の発生過程を考察することを目的とする。</p> <p>『東国』は、豊臣秀吉の朝鮮出兵によって疲弊した人心を掌握・教化する為に官撰された、朝鮮人の徳行事例集である。古代から当代に至る表彰者まで朝鮮の孝子・忠臣・烈女が列挙されており、公式に孝忠烈道德に歴史的由来を付与した書物だと言えよう。一方、民衆に理解を促す為に付された諺解文（当時の朝鮮語訳）には言語学的価値があり、従来はこの観点からの研究が中心だった。他方、表彰記録集としての側面に着目し、善行表彰や同書刊行の政策的意義を論じた先行研究はあるものの、記述内容そのものに焦点を当てた研究は未だ見られない。</p> <p>17世紀とは日中朝が相互関連しつつ、独自に儒教・朱子学的な思惟を發展させる契機を迎えた時代である。思想的側面のみならず、実際の道德倫理も例外ではなかった。なぜなら、戦争により疲弊した人心を如何に安定させるか、という三国共有の課題にそれぞれの政権や知識人が対峙し、解決を模索しなければならなかったからである。この状況でオーソリティとしての徳行が提示されれば、背徳行為、もしくは心情的に許し難い行為としての悪行が明確に規定されよう。一方で、伝統的に受け継がれてきた「善行」の吟味が新たな課題として浮上することにもなる。そのような歴史的・文化的な重要性にもかかわらず、『東国』の本格的な分析は看過されてきたと言わざるを得ない。そこで、本研究では『東国』をはじめとする同時代の顕彰例や反例、処罰例の実証的な検証を通じ、儒教的な道德倫理の実際や、それを生み出した時代や社会の在りかたを描き出したい。</p> <p>本研究の意義は次の二点である。第一に、朝鮮文化の儒俗二元論的理解やステレオタイプな道德觀を抽出するだけで事足りりとするのではなく、その発生過程にまで迫り、実際に生きられた倫理とそれを生み出した論理に新たな視野を提示すること。第二に、似て非なる日中韓の道德觀念の差異を生んだものは何か、への回答に資することである。この問題に対する考察は三国の文化的な共通性と違いへの理解を深めるに役立つ。それはまた、モラルとは何なのか、それは人間にとって必要不可欠なものなのか、という問いに結びつき、ひいてはこれからの社会にあり方への指針ともなりえるものと確信する。</p>	

# 成果報告書

記入日 2011年 4月 28日

氏名	金子 祐樹	留学先国名	大韓民国	所属機関	高麗大学校民族文化研究院
----	-------	-------	------	------	--------------

研究テーマ：17世紀初頭の朝鮮における道德観念の諸相—官撰教科書と「伝」資料を中心に

留学期間：2009年 4月～2011年 3月

**【概括】**

この度、御支援に与って渡韓、現地での任期を満了し無事に帰国した。この二年間での成果は、発表4本（うち、国際学会2本）、論文3本であった。進捗としては、計画に沿いつつ、(A)17世紀初の官撰教科書『東国新統三綱行実図』（以下、『東国』）についての分析を概ね完了し、(B)『東国』所載の事例と野史（在野の史書）や野談（在野の人物伝）に収められた「伝」資料との比較考察にまで無事着手できた。(B)については分析結果の全てをまだ十分に発信できていないので、引き続き行うことになる。

**【成果】**

総括としての成果報告書であるため、二年間の成果を学会等発表（以下、発表と略す）と投稿論文掲載（以下、論文）の別にまとめた。ただし、既に提出した「留学進捗状況報告書」において先の1年分の報告が為されているため、それについてはタイトルの前に※マークを付して示し、詳細を省いている。本報告を含む両書類を合わせて御高覧頂きたい。

**《発表》**

- (1)2009年08月※「行実図系教化書の展開と忠行為の推移—17世紀初期の官撰教化書『東国新統三綱行実図』の分析を通して—」（日本語・韓国語）
- (2)2010年02月※「『東国新統三綱行実図』と野史の忠臣像—開戦から忠州弾琴台の戦いまで」（日本語）
- (3)2010年10月「『東国新統三綱行実図』『新統忠臣図』所載の倭乱以前事例と中国の忠臣像—行実図系における道德的人物像の受容に関する比較考察—」（韓国語）

学会名称：第10回韓国語文学国際学術会議

企画テーマ：韓・中の文化交流

日時：2010年10月16日（土）

場所：南京大学（中国、南京市）

主催：韓国語文学国際学術フォーラム

主管：南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校 BK21 韓国語文学教育研究団

(4) 2011年03月「『東国新統三綱行実図』の忠臣像と奴婢の忠—17世紀初頭の朝鮮国における道德観念に関する瞥見」(韓国語)

学会等名称：週例研究会第144回「月曜の集い」

日時：2011年3月14日(月)

場所：高麗大学校民族文化研究院大会議室(ソウル特別市)

主催：高麗大学校民族文化研究院 HK 韓国文化研究団

その他：HKとは人文韓国(Humanities Korea)事業の略であり、先行の国家的学術支援であるBK21(BrainKorea21：頭脳韓国21)事業に続き、更に人文学・韓国学に絞って対象とした10年単位の長期的学術振興事業を指す。民族文化研究院は第一段階BK21(1999-2005)、第二段階BK21(2006-2012)、及びこのHK事業すべての国家支援を獲得、本発表もその一環として招請を受け、為されたものである。

#### <論文>

(1) 2009年12月※「行実図系教化書の展開と忠行為の推移—17世紀初期の官撰教化書『東国新統三綱行実図』の分析を通して—」(韓国語)

(2) 2010年08月「忠観念の実践道德的諸相をめぐる考察上の留意点—朝鮮役緒戦を例として」(日本語)

雑誌名：『Journal of Korean Culture』第15号

刊行機関：韓国語文学国際学術フォーラム

備考：発表(2)を加筆修正し、投稿したものである

(3) 2011年02月「『東国新統三綱行実図』「新統忠臣図」所載の倭乱以前事例と中国の忠臣像—行実図系における道德的人物像の受容に関する比較考察—」(日本語)

雑誌名：『Journal of Korean Culture』第16号

刊行機関：韓国語文学国際学術フォーラム

備考：発表(3)を加筆修正し、投稿したものである

#### 【健康状態】

滞在期間中、また帰国後も継続して良好。

#### 【生活・研究環境】

研究環境は全体を通じ恵まれた。1年目の状況は報告済みであるので省くが、2年目は学会(民族語文学学会秋季大会、2010年11月)での指定討論者を務めるなど、より多様な機会に与った。ただし、生活全体としては渡韓前では考えられなかった程の急激な物価上昇や予想もつかない寒波の到来に備えるなどの為、予算を大幅に超過した。生活面での予算組み立てについて目算が甘かったと言わざるを得ない。

#### 【総括】

成果については、官撰教化書『東国新統三綱行実図』の分析を、学位論文の観点の基点とし得る程度に十分な分析ができた。また、野史や野談についても当面の研究は十分継続できる分量の資料を入手し、それを利用した考察の一つとして<発表>(4)を成果とできた。今後は、<発表>(4)の加筆修正を含め、入手した資料の活用や現地での分析結果を論文にするなど着実に作業を進め、学位論文の完成に努めたい。また今後も滞在研究の機会はあるので物価についても一層シビアに見るつもりである。